各社トップが語る 2021

オフィス エフエイ・コム

代表取締役社長 **飯野　英城**

最先端の技術を世界へ発信

2020年は他の産業と同様、製造業も新型コロナウイルス感染拡大の影響を大きく受けた。製造業が抱える課題が浮き彫りになり、サプライチェーン分散化、自動化・省人化、設計・開発業務や生産追跡・遠隔作業のリモート化など、新しい挑戦が必要不可欠となっている。

このような状況の中、20年は事業拡大に舵を切った。「Team Cross FA（TXFA）」幹事企業とともに、製造業のDXが体感できるショールーム「スマラボ東京」を9月に開所した。次世代DXコンセプトライン「DX型ロボットジョブショップ」を展示し、世界屈指の技術力を有するFA・ロボットシステムインテグレータ（ロボットSIer）を中心としたTXFAだからこそ実現できる次世代の製造業のあり方を体感いただける場とした。さらに、新たな拠点として埼玉、大阪、京都に工場を開設し、生産体制の強化を進めるとともに、既存施設「スマラボ小山」では新たなロボットシステムを導入した。

本年も引き続き、拠点の強化を進めていく。ロボットSIerが本気で作るスマートファクトリー「ロボコム・アンド・エフエイコム南相馬工場」の開所、スマラボ小山・東京への新たな設備導入を通じて、DXと連動する生産ロボットシステム／生産ラインをより身近に体感いただける空間としていく。

また、新型コロナウイルス感染拡大の影響で延期になったロボットの競技会「World Robot Challenge」の本大会が開催予定だ。前回は当社チーム「FA. COM Robotics」が、課題である製品組み立てを唯一完遂して世界3位となったが、今回はTXFAとしてエントリーをしており、世界一の座を狙う。技術力の高さを証明し、「企業が抱く夢を実現する」というテーマのもと、制御の分野で世界一を目指す。

日本サポートシステム

代表取締役社長 **天野　眞也**

変革の連続で更なる飛躍へ

2020年は当社にとって変革の年となった。画像処理の検証から装置化まで対応可能な施設「画処ラボ」を2月に開設。周辺機器やソフトウェア等で40社以上と協業連携を確立し、ロボットパッケージを備え、効果検証のスピード性と正確性を実現している。さらに、8月には茨城県土浦市に本社機能を移転。作業面積は2・5倍となり、シームレスな作業環境を整えている。多岐にわたるニーズに対応するため、社員数も140人から約180人へと増やし、グローバル人材の採用も継続している。

今年は拡張した本社機能をフル稼働させ、更なる売上増に挑む。20年度決算は前期比2倍の売上高22億円を達成し、今期は更に約2倍の売上高40億円の目標を掲げている。ウィズコロナやポストコロナの面から衛生関連の引き合いが増えていること、一昨年から導入したオンライン商談から案件が萌芽していることから目標を達成できる見込みだ。主な取り組みとしては、19年度に始動した保守サービスを『SAPO＋（サポタス）』と命名し、老朽化設備の保守や産業用PCのリプレースからロボット導入支援までサポートする。また、加工業務を社内ベンチャー化し、独立採算を見込む。この後ろ盾として、企業コンソーシアム「Team Cross FA」や、その象徴ともなる「ロボコム・アンド・エフエイコム南相馬工場」が21年に稼働予定であることも強みだ。自動加工ラインと高精度の多種多様な設備導入により、あらゆる加工に対応可能となる。新たな試みとして、茨城県内初のロボット安全教育の学校「ロボデミー」を開設し、産業用ロボットに携わるエンジニアの教育を行い製造業発展に貢献する。今後も「Fun To Challenge」を追求しながら、社員が楽しくワクワクできるような環境作りを推進する。

FAプロダクツ

代表取締役社長 **貴田　義和**

グローバル戦略を推進

当社は製造業のDXから生産ラインの開発・実装までを包括的に支援するコンソーシアム「Team Cross FA（TXFA）」の幹事企業として、各種シミュレーション技術を持つ強みを活かし、DXが主導する次世代スマートファクトリー構築の全体プロデュースを行い、コンソーシアム活動を牽引している。

昨年は、製造業のDXと生産ロボットシステムの連動を体感できるショールーム「スマラボ東京」開設が大きなトピックスだ。オープン以降、製造業に限らず官公庁、自治体、企業など、さまざまな分野のイノベーターにお越しいただいている。また、官公庁との連携も進んだ。経済産業省がとりまとめる「ロボットシステム等導入のための主要支援機関リスト」への掲載や同省が選定する「地域未来牽引企業」にも採択され、これらはTXFAの幹事企業も複数社が名を連ねている。そのTXFAの活動として、教育機関への出張講座やYouTubeチャンネルの開設、コミュニティ運営など、製造業やロボットSIerの魅力を発信する取り組みも始めた。これらの成果もあり、講演依頼や新設工場におけるスマートファクトリー構築の問い合せが増えている。

今年は会社設立10周年を迎え、「コネクテッドインダストリーズを世界へ」の実現に向けて事業拡大の速度をさらに上げていく。具体的には、グローバル戦略としてタイに拠点を開設し、海外人材の採用・育成を強化する。また、スマートエネルギー事業では昨年スタートしたP2P電力取引実証プロジェクトを通じて、再生エネルギーの次世代活用プラットフォーム構築を目指していく。コロナ禍で環境・市場の変化に柔軟に対応する重要性が再確認されている中で、次世代エネルギーマネジメントを含めたスマートファクトリー構築で製造業をアップデートし、新しい産業・文化を創りたい。

ロボコム

取締役 **金谷　智昭**

ロボット構想でDX推進

ロボコムは、ロボットSIerの1級建築士として、ロボットシステム導入に係る要件定義・構想設計、シミュレーション、コンサルティングを専門に行う日本唯一のエンジニアリング会社である。ロボットシステム導入における水平分業化を目指し、経済産業省が提唱するロボットシステム導入プロセス標準『RIPS』に基づく共通言語を活用して、当社で設計した図面を元に、各地の専門業者に製造を委託できる中立的な立場を目指している。「エンジニアファーストによる 最高のエンジニアリング」を理念に掲げ、SIerの地位向上のため、関係省庁、地方自治体、業界団体との連携強化にも努めている。

20年はコロナ禍の影響もあり、多くの計画変更を迫られたが、これまで開発を進めてきた『DX型ロボットジョブショップ』のモデルラインは無事完成し、9月にオープンした「スマラボ東京」でお披露目をした。数多くの製造業企業の幹部のみならず、様々なメディアにも取材いただき、製造業DXが推進するスマートファクトリー実現を支援する立場として、内外へ広くアピールすることができた。本年5月にはロボコム・アンド・エフエイコム南相馬工場で、この仕組みを応用した世界初の自動加工ラインが稼働する予定である。これらの基盤となる構想設計から詳細設計までの開発設計を当社が担っている。企業コンソーシアム「Team Cross FA」幹事企業の中でも、スマートファクトリーを具現化する最重要工程の一つである「構想設計」専門会社として、サプライチェーン再編やダイナミックケイパビリティ経営が問われる製造業において、本年も構想設計を軸として、関係省庁、地方自治体とも連携強化を図りながら、中小企業のロボット導入加速に貢献していきたい。

ロボコム・アンド・エフエイコム

取締役 **藤井　幸一郎**

デジタル工場、操業開始

ロボコム・アンド・エフエイコムは、FAや産業用ロボットのSIerに後方支援を行う会社として2018年8月に設立され、主に技術者の育成及び派遣、特定用途のレディメイド型ロボットシステムのご提供、システムインテグレーションに必要なITシステムの開発、金属加工等を行っている。

また、「Team Cross FA」の幹事企業としても同様の役割を担う。

数年前より製造業では「インダストリー4・0」、「IoT」というコンセプトが提唱され、製造プロセスの管理をワーク単位・動作単位で行ったり、モノを「いつ・どのように・どれぐらい」作るのかをデジタルでシミュレーションしてから実装する「デジタルファクトリー」の流れが活発になっている。そして昨年は、新型コロナウィルス感染拡大の対策として、お客様との打ち合わせはオンラインで行われることが多くなった。

このような状況によって、お客様の要望確認から製造前のデジタルシミュレーション、製造・検査工程でのワークや設備の自動管理まで、一気通貫したデジタルファクトリー化が技術的にも慣習的にも可能になった。

この一気通貫化により、品質向上、トレーサビリティ、コスト削減、短納期、人手不足解消や改竄防止など、製造業が抱えるさまざまな課題を解決していくことができると考えている。

当社が会社設立以来準備を進めてきた、福島県南相馬市の工場が本年半ばには完成する予定である。南相馬工場をデジタルファクトリーのモデルケースとして公開・情報発信していくと同時に、お客様への支援を開始していく。

INDUSTRIAL-X SECURITY

代表取締役社長 **八子　知礼**

現場DXで産業構造を革新

2020年はなんといってもコロナに終始する1年となった。3月下旬から自動車メーカをはじめとする様々な工場で部品供給が止まったり、中国工場の稼働が止まったのは記憶に新しい。また、全世界にサプライチェーンが破綻してしまい、中国一極集中をみなおす契機になったのは、我々Team Cross FAが9月にオープンした「スマラボ東京」が連日活況であることも、DX型ロボットジョブショップが前述のニーズに合致したコンセプトであり、実現例であるからに他ならないだろう。国内回帰を謳うならば自動化とセットで検討すべきだろう。

コロナ禍により、さまざまな産業でDXが進んでいる。巣ごもり需要でFAにとっても追い風とも言えるだろう。

しかしながら、国内に工場を戻そうとしても人材の雇用もままならぬ現在となっては、IoTによる可視化・リモート化はもちろんのこと、ロボットによる更なる自動化が必要であることは言うまでもない。Team Cross FAが9月にオープンした「スマラボ東京」で4月からの3カ月で過去10年分のEC化率と同等のEC化率の伸びを示したことが判明している。結果としてリモート化やオンライン調達・手続き・会議などが当たり前のように行われるようになったため、ホワイトカラーはオフィス縮小などに一気にシフトした。一方で製造・流通・小売の現場ブルーカラーはそのようなDXの恩恵を十分に受けることなく取り残されているのが実態だ。

DXの恩恵を受けなかった製造・物流・小売の現場を万全の制御セキュリティ対策を担保した上でリモート化・自動化するDXを推進する、これが弊社の使命であると考えている。すべての業界にDXのメリットを広く普及させ、産業構造をアップデートすることに引き続き邁進していきたい。

SaaSis

代表取締役 **宮川　樹生**

SaaS連携時代の到来

当社は、SaaSを中心とする既存のシステム同士をAPI連携し、DX実現の支援を目的に2019年3月に設立した。設立間もない企業だが、多くの企業でSaaS同士のAPI連携による業務システム構築に携わり、SaaSの持つ柔軟な仕組みをいち早く取り入れてきた。

昨今はコロナ禍によりテレワーク等の新しい働き方が世間に浸透した。それに伴いSaaS業界は各ベンダーのSaaSが独立して導入されることだけでなく、他社のSaaSとの連携を用意する動きがより一層盛んになっている。

21年はまさに「SaaS連携の時代」であり、製造業も例に漏れず各業務システムの連携がますます容易になり、デジタルファクトリー化やコネクティッドインダストリー実現を後押しするだろう。実際に多くのお問合せをいただき、日本を代表する企業・団体のプロジェクトが新年からスタートする。

当社は、SaaS連携の時代になる以前、さらには起業前からSaaSの知見、及びAPI連携のノウハウを培ってきたメンバーが集まる企業だ。国内外問わずさまざまなSaaSやAPIドキュメントをリサーチ・検証し、複数のSaaS連携という独特の導入・運用支援をご提案してきた。業務システムの構築は工数やムダの削減に注目が集まるが、よりパワフルな効果はビッグデータの収集と分析・アクションだ。

21年は今まで以上に見通しの立たない時代であると予想されるが、ビッグデータのような目に見える情報を繋げることで未来が予測し易くなると考えている。当社の新たな価値として「未来の可視化」の支援を行うとともに、次世代デジタルファクトリーを構築するコンソーシアム「Team Cross FA」幹事企業として製造業DXを推進していくことを21年の目標に据えている。

TEAM CROSS FA

Brand New Japan.

Team Cross FAは、
製造業のDXから生産ラインの開発・実装までを
包括的に支援するコンソーシアムです。

自動車、電気、食品、物流など
あらゆる業界での「ものづくり」を変革する体制を確立。
昨年は製造業のDXが体感できるショールーム『スマラボ東京』を開所し、
新しい製造業の形を提案してきました。

2021年は福島県南相馬に最新の加工設備と組立設備を導入した
スマートファクトリーがオープン。
製造業のDXを体現する工場が稼働いたします。

こうした新しい挑戦により基幹産業である製造業を活性化させ、
経済成長を後押しし、日本の未来を創っていきます。

Team Cross FA 幹事会社　FA Products　ROBOTCOM　FA.COM　ROBOTCOM & FA.COM　INDUSTRIAL-SECURITY X　SaaSis　チームクロスエフエー Search　connected-engineering.com